

Site Recovery Manager 8.2 の vRealize Orchestrator プラグインの使用

Site Recovery Manager 8.2



vmware®

最新の技術ドキュメントは、VMware の Web サイト (<https://docs.vmware.com/jp/>) でご確認いただけます。このドキュメントに関するご意見およびご感想は、docfeedback@vmware.com までお送りください。

VMware, Inc.
3401 Hillview Ave.
Palo Alto, CA 94304
www.vmware.com

ヴァイエムウェア株式会社
105-0013 東京都港区浜松町 1-30-5
浜松町スクエア 13F
www.vmware.com/jp

Copyright © 2019 VMware, Inc. All rights reserved. [著作権および商標情報](#)。

目次

1	Site Recovery Manager プラグインの使用	5
2	Site Recovery Manager 用の vRealize Orchestrator プラグインによる自動操作	6
3	Site Recovery Manager プラグインのインストール	8
	Site Recovery Manager プラグインの機能前提条件	8
	Site Recovery Manager プラグインのインストール、アップグレード、およびアンインストール	9
4	Site Recovery Manager プラグイン ワークフローの使用	10
	Site Recovery Manager プラグインで利用できるワークフロー	10
	Site Recovery Manager プラグインを使用する際の前提条件	12
	構成ワークフロー	13
	ローカル サイトの構成	13
	リモート サイトの構成	14
	リモート サイトへのログイン	14
	ローカル サイトの削除	15
	Site Recovery Manager プラグインでのインベントリ マッピング ワークフロー	15
	フォルダ マッピングの追加	16
	ネットワーク マッピングの追加	17
	リソース マッピングの追加	17
	テスト ネットワーク マッピングの追加	18
	フォルダ マッピングの取得	18
	ネットワーク マッピングの取得	19
	リソース マッピングの取得	19
	テスト ネットワーク マッピングの取得	20
	フォルダ マッピングの削除	20
	ネットワーク マッピングの削除	21
	リソース マッピングの削除	21
	テスト ネットワーク マッピングの削除	22
	Site Recovery Manager プラグインの保護グループ ワークフロー	22
	複製された仮想マシンの vSphere Replication 保護グループへの追加	22
	アレイベース レプリケーションの保護グループの作成	23
	vSphere Replication 保護グループの作成	23
	データストアごとのアレイベース レプリケーション保護グループの検出	24
	未割り当ての複製されたデータストアの取得	24
	保護されたデータストアのリスト	25
	保護グループのリスト	25
	保護グループに関連付けられた保護されていないすべての仮想マシンの保護	26

仮想マシンの保護	26
保護グループの削除	27
複製された仮想マシンの vSphere Replication 保護グループからの削除	27
仮想マシンの保護解除	28
グループ データストアの更新	28
Site Recovery Manager プラグインのリカバリ プラン ワークフロー	28
リカバリ プランへの保護グループの追加	29
テスト ネットワーク マッピングのリカバリ プランへの追加	29
リカバリ プランの作成	30
リカバリ プランの削除	30
リカバリ プランのキャンセルの開始	31
リカバリ プランの状態の取得	31
リカバリ プランのクリーンアップの開始	33
リカバリ プランのフェイルオーバーの開始	33
計画移行リカバリ プランの開始	34
リカバリ プランの再保護の開始	34
リカバリ プランのテストの開始	35
リカバリ プランのリスト	36
保護グループのリカバリ プランからの削除	36
テスト ネットワーク マッピングのリカバリ プランからの削除	36
IP アドレスの設定	37
仮想マシン リカバリ設定の指定	37
呼び出しの削除	38
Site Recovery Manager プラグインのストレージ ワークフロー	39
複製されたデバイスの検出	39

Site Recovery Manager プラグインの使用

1

「Site Recovery Manager 用の vRealize Orchestrator プラグインの使用」8.2 ガイドでは、VMware Site Recovery Manager の VMware vRealize Orchestrator プラグインの構成と使用に関する情報および注意について説明します。

対象者

「Site Recovery Manager 用の vRealize Orchestrator プラグインの使用」8.2 ガイドの情報は、Site Recovery Manager プラグインを使用して vSphere 環境で保護およびリカバリ構成タスクを自動化する熟練管理者向けです。この情報は、vRealize Orchestrator のワークフロー開発や VMware Site Recovery Manager など、仮想マシンテクノロジーを理解した熟練ユーザー向けに作成されています。

vRealize Orchestrator の詳細については、『vRealize Orchestrator のドキュメント』を参照してください。

Site Recovery Manager の詳細については、『VMware Site Recovery Manager のドキュメント』を参照してください。

Site Recovery Manager 用の vRealize Orchestrator プラグインによる自動操作

2

vRealize Orchestrator plug-in for Site Recovery Manager を使用すると、Site Recovery Manager インフラストラクチャの作成を自動化し、サイト間のリソース マッピングの管理、保護グループとリカバリ プランの構成、仮想マシンの保護グループへの追加、仮想マシンのリカバリ構成、リカバリの実行を行うことができます。

vRealize Orchestrator plug-in for Site Recovery Manager を使用すると、仮想マシンをアレイベース レプリケーションまたは vSphere Replication 保護グループに追加することによって保護できます。プラグインにより、仮想マシンにおける vSphere Replication の構成が自動化されることはありません。vRealize Orchestrator Plug-In for vSphere Replication を使用して、仮想マシンに vSphere Replication を構成したり、vSphere Replication を手動で構成したりできます。vRealize Orchestrator Plug-In for vSphere Replication の詳細については、vSphere Replication の vRealize Orchestrator プラグインのリリース ノートを参照してください。

vRealize Orchestrator plug-in for Site Recovery Manager には、vRealize Orchestrator のアクション、ワークフロー、特定のイベントが発生した場合にアクションをトリガーするポリシー テンプレート、Site Recovery Manager API の指定した要素をワークフローに公開するためのスクリプティング オブジェクトが含まれます。

このプラグインは、ローカルおよびリモート サイトの構成、ローカル サイトの削除、リモート サイトへのログインを行うワークフローを提供します。

注: ローカル サイトとリモート サイトを構成するワークフローでは、vRealize Orchestrator トラスト ストアに、ローカル サイト インフラストラクチャ ノードの SSL 証明書と、ローカル サイトの vCenter Server SSL 証明書がすでにあることを前提としています。組み込みの構成では、vRealize Orchestrator トラスト ストアに証明書が 1 つだけあることを前提としています。管理者がいずれかの SSL 証明書を更新した場合は、適切なワークフローを再実行する必要があります。

このプラグインは、Site Recovery Manager インフラストラクチャでインベントリ マッピングを管理するアクションとワークフローを提供します。

- フォルダ マッピングの追加、取得、削除
- ネットワーク マッピングの追加、取得、削除
- リソース マッピングの追加、取得、削除
- テスト ネットワーク マッピングの追加、取得、削除

このプラグインは、保護グループを管理して構成するアクションとワークフローを提供します。

- アレイベース レプリケーションまたは vSphere Replication の保護グループの作成、リスト、削除

- vSphere Replication 保護グループから複製された仮想マシンの追加または削除
- 仮想マシンの保護または保護解除
- 保護グループに関連付けられたすべての仮想マシンの保護
- 保護されたデータストアのリスト
- 未割り当ての複製されたデータストアの取得
- データストアごとのアレイベース レプリケーション保護グループの検出
- アレイベース レプリケーション保護グループでのデータストアの追加と削除

このプラグインは、リカバリ プランを管理して構成するアクションとワークフローを提供します。

- リカバリ プランの作成または削除
- 保護グループへの追加、またはリカバリ プランからの保護グループの削除
- テスト ネットワーク マッピングの追加、またはリカバリ プランからのテスト ネットワーク マッピングの削除
- 仮想マシンのリカバリ設定
- リカバリ プランのリスト、およびリカバリ プランの状態の取得
- 仮想マシン リカバリ設定の指定
- IP アドレスの設定
- 仮想マシンのパワーオン前後のカスタム リカバリ設定の削除
- 次の内容を開始します。

リカバリ プランのテスト

リカバリ プランのクリーンアップ

リカバリ プランのフェイルオーバー

リカバリ プランの再保護

リカバリ プランのキャンセル

計画移行リカバリ プラン

注: プラグインがリカバリ プランのテスト、クリーンアップ、フェイルオーバー、再保護、計画移行、キャンセルを開始すると、リカバリ プランの状態の初期確認が行われます。ワークフローが正常に実行された場合でも、失敗した場合でも、操作の進捗に関する情報は提供されません。プランの進捗は、vSphere Web Client で監視できません。

このプラグインは、サンプルの自動化されたアクションとワークフローを提供します。

- 単一または複数の仮想マシンの UnassignedReplicatedVM への変換
- アレイベース保護グループの作成、既存の仮想マシンの保護、リカバリ プランへの追加
- 仮想マシンの作成および保護

Site Recovery Manager プラグインのインストール

3

保護サイトおよびリカバリ Site Recovery Manager サイトでワークフローを作成して実行するには、Site Recovery Manager プラグインを vRealize Orchestrator にインストールして構成する必要があります。

この章には、次のトピックが含まれています。

- [Site Recovery Manager プラグインの機能前提条件](#)
- [Site Recovery Manager プラグインのインストール、アップグレード、およびアンインストール](#)

Site Recovery Manager プラグインの機能前提条件

Site Recovery Manager プラグインをインストールおよび使用するには、システムが特定の機能前提条件を満たす必要があります。

Site Recovery Manager

使用する Site Recovery Manager プラグインのバージョンと Site Recovery Manager に互換性があることを確認します。

Site Recovery Manager プラグインと Site Recovery Manager の間の互換性については、『Site Recovery Manager 8.2 用の vRealize Orchestrator プラグイン リリース ノート』を参照してください。

Site Recovery Manager のセットアップの詳細については、『Site Recovery Manager のインストールと構成』ドキュメントを参照してください。

vRealize Orchestrator

Orchestrator のインスタンスが実行中で、そのバージョンが Site Recovery Manager および Site Recovery Manager プラグインのバージョンと互換性があることを確認します。

Site Recovery Manager と Orchestrator の間の互換性については、『Site Recovery Manager 8.2 用の vRealize Orchestrator プラグイン リリース ノート』および『Site Recovery Manager 8.2 互換性マトリックス』ドキュメントを参照してください。

Orchestrator のセットアップ、Orchestrator クライアントへのログイン、使用可能な認証方法の詳細については、『VMware vRealize Orchestrator のインストールと構成』ドキュメントを参照してください。

その他の前提条件

vCenter Server プラグインがインストールされていることを確認します。vRealize Orchestrator ドキュメントの「vCenter Server プラグインの使用」トピックを参照してください。

Site Recovery Manager プラグインのインストール、アップグレード、およびアンインストール

Site Recovery Manager プラグインを使用するには、最初に Orchestrator インスタンスにインストールします。Site Recovery Manager プラグインは、Site Recovery Manager および Orchestrator と互換性があるバージョンをインストールする必要があります。

Site Recovery Manager プラグインのインストール

Site Recovery Manager サイトがペアで、Orchestrator インスタンスが vSphere 環境に対応するように構成されている場合は、Site Recovery Manager プラグインをインストールできます。

vSphere 環境を使用するには、Orchestrator を構成する必要があります。vSphere 環境に対応するように Orchestrator を構成する方法の詳細については、『VMware vRealize Orchestrator のインストールと構成』ドキュメントの「vRealize Orchestrator の構成」セクションを参照してください。

Site Recovery Manager のダウンロード ページから Site Recovery Manager プラグインのインストール ファイル `.vmoapp` をダウンロードできます。

`https://your_orchestrator_server:8283/vco-controlcenter` の構成インターフェイスを使用すると、Site Recovery Manager プラグインをインストールできます。Orchestrator インスタンスでの `.vmoapp` ファイルのインストール方法の詳細については、『VMware vRealize Orchestrator のインストールと構成』ドキュメントの「Orchestrator プラグインの管理」トピックを参照してください。

Site Recovery Manager プラグインのアップグレードおよびアンインストール

プラグインをアンインストールして新しいバージョンをインストールすると、Site Recovery Manager プラグインをアップグレードできます。

`https://your_orchestrator_server:8283/vco-controlcenter` の構成インターフェイスを使用すると、Site Recovery Manager プラグインをアンインストールできます。Site Recovery Manager プラグインのアンインストール方法の詳細については、『VMware vRealize Orchestrator のインストールと構成』ドキュメントの「プラグインのアンインストール」トピックと、次のナレッジベースの記事：<https://kb.vmware.com/kb/2064575>「Uninstalling a plug-in from vRealize Orchestrator 5.5.x, 6.0.x, and 7.x」を参照してください。

Site Recovery Manager プラグイン ワークフローの使用

4

Site Recovery Manager プラグイン ワークフロー ライブラリには、Site Recovery Manager タスクの自動化に使用できるワークフローが含まれています。定義済みのワークフローでは、テストの実行、クリーンアップ、リカバリの実行、再保護、およびリカバリ プランのキャンセルを行うことができます。定義済みのワークフローを使用して、カスタム ワークフローを作成できます。

Orchestrator クライアントの [インベントリ] ビューを使用すると、利用可能な Site Recovery Manager のリソースを管理できます。プラグインのスクリプト作成 API を使用すると、カスタム ワークフローを作成できます。

この章には、次のトピックが含まれています。

- Site Recovery Manager プラグインで使用できるワークフロー
- Site Recovery Manager プラグインを使用する際の前提条件
- 構成ワークフロー
- Site Recovery Manager プラグインでのインベントリ マッピング ワークフロー
- Site Recovery Manager プラグインの保護グループ ワークフロー
- Site Recovery Manager プラグインのリカバリ プラン ワークフロー
- Site Recovery Manager プラグインのストレージ ワークフロー

Site Recovery Manager プラグインで使用できるワークフロー

Site Recovery Manager プラグインは、構成、インベントリ マッピング、保護グループ、ストレージ ワークフローを提供します。

表 4-1. 構成ワークフロー

ワークフロー	操作の説明
ローカル サイトの構成	Site Recovery Manager の URL の取得、接続の検証、証明書のインポート、ローカル（または指定した）Platform Services Controller に関連付けられたローカル サイトの登録を実行します
リモート サイトの構成	リモート参照サービスの URL の取得、証明書のインポート、リモート vCenter Server URL の取得、証明書のインポートを実行します
リモート サイトへのログイン	リモート サイトにログインします
ローカル サイトの削除	ローカル サイトを削除します

表 4-2. インベントリ マッピング ワークフロー

ワークフロー	操作の説明
フォルダ マッピングの追加	ベアのサイトの間のフォルダ マッピングを追加します
ネットワーク マッピングの追加	ベアのサイトの間のネットワーク マッピングを追加します
リソース マッピングの追加	ベアのサイトの間のリソース プール マッピングを追加します
テスト ネットワーク マッピングの追加	テスト ネットワーク マッピングをリモート サイトに追加します
フォルダ マッピングの取得	ローカル サイトのフォルダ マッピングをリストします
ネットワーク マッピングの取得	ローカル サイトのネットワーク マッピングをリストします
リソース マッピングの取得	ローカル サイトのリソース マッピングをリストします
テスト ネットワーク マッピングの取得	リモート サイトのテスト ネットワーク マッピングをリストします
フォルダ マッピングの削除	ローカル サイトからフォルダ マッピングを削除します
ネットワーク マッピングの削除	ローカル サイトからネットワーク マッピングを削除します
リソース マッピングの削除	ローカル サイトからリソース マッピングを削除します
テスト ネットワーク マッピングの削除	リモートのテスト ネットワーク マッピングを削除します

表 4-3. 保護グループ ワークフロー

ワークフロー	操作の説明
複製された仮想マシンの vSphere Replication 保護グループへの追加	選択した複製された仮想マシンを既存の vSphere Replication 保護グループに追加します
アレイベース レプリケーションの保護グループの作成	未割り当ての複製されたデータストアに基づき、アレイベース レプリケーションの保護グループを作成します
vSphere Replication 保護グループの作成	vSphere Replication 保護グループを作成し、仮想マシンを保護グループに追加します
データストアごとの ABR 保護グループの検出	ローカル サイトのアレイベース レプリケーション保護グループをリストします
未割り当ての複製されたデータストアの取得	ローカル サイトの未割り当ての複製されたデータストアをリストします
保護されたデータストアのリスト	保護グループの複製されたデータストアをリストします
保護グループのリスト	ローカル サイトの保護グループをリストします
保護グループに関連付けられた保護されていないすべての仮想マシンの保護	保護グループのすべての保護されていない仮想マシン メンバーの保護を有効にします
仮想マシンの保護	保護グループの保護されていない仮想マシン メンバーの保護を有効にします
保護グループの削除	保護グループを削除します
複製された仮想マシンの vSphere Replication 保護グループからの削除	選択された仮想マシンを vSphere Replication 保護グループから削除します
仮想マシンの保護解除	選択した仮想マシンの保護を無効にします
グループ データストアの更新	アレイベース レプリケーション保護グループでデータストアを追加および削除します

表 4-4. リカバリ プラン ワークフロー

ワークフロー	操作の説明
リカバリ プランへの保護グループの追加	保護グループをリカバリ プランに追加します
テスト ネットワーク マッピングのリカバリ プランへの追加	テスト ネットワーク マッピングをリカバリ プランに追加します
リカバリ プランの作成	リカバリ プランを作成します
リカバリ プランの削除	リカバリ プランを削除します
リカバリ プランの状態の取得	リカバリ プランの状態をリストします
リカバリ プランのキャンセルの開始	実行中のリカバリ プランをキャンセルします
リカバリ プランのクリーンアップの開始	テスト後、リカバリ プランをクリーンアップします
リカバリ プランのフェイルオーバーの開始	サイト リカバリ プロセスのフェイルオーバーを開始します
計画移行リカバリ プランの開始	リカバリ サイトへの計画移行を開始します
リカバリ プランの再保護の開始	サイトの再保護を開始して、保護を反転させます
リカバリ プランのテストの開始	リカバリ プランのテストを開始します
リカバリ プランのリスト	リカバリ プランをリストします
保護グループのリカバリ プランからの削除	保護グループをリカバリ プランから削除します
テスト ネットワーク マッピングのリカバリ プランからの削除	テスト ネットワーク マッピングをリカバリ プランから削除します
仮想マシン リカバリ 設定の指定	リカバリ プランの仮想マシンの優先グループ、電源状態、パワーオン前のコマンドとプロンプト、パワーオン後のコマンドとプロンプトを設定します
IP アドレスの設定	独立して実行できない、ネストされたワークフローです。[仮想マシン リカバリ 設定の指定] ワークフローの一部として呼び出されます
呼び出しの削除	仮想マシンのパワーオン前後のカスタム リカバリ 設定を削除します

表 4-5. ストレージ ワークフロー

ワークフロー	操作の説明
複製されたデバイスの検出	使用可能なすべてのアレイのペアで複製されたデバイスの検出操作を開始します

Site Recovery Manager プラグインを使用する際の前提条件

Site Recovery Manager プラグインを使用するには、使用環境が特定の要件を満たす必要があります。

- 両方のサイトに Site Recovery Manager サーバ インスタンスがインストールされており、ペアになっていることを確認します。
- Orchestrator インスタンスが vSphere インフラストラクチャに対応するように構成されていることを確認します。vSphere 環境に対応するように Orchestrator を構成する方法の詳細については、『VMware Realize Orchestrator のインストールと構成』ドキュメントの「vRealize Orchestrator の構成」セクションを参照してください。

構成ワークフロー

構成ワークフローでは、Lookup Service、認証プロバイダ、および Platform Services Controller を含む vCenter Server トポロジと Site Recovery Manager トポロジに関する情報を登録します。

構成ワークフローは、機能上の前提条件です。インベントリ ツリーからワークフローを実行する前に、ローカル サイトの構成、リモート サイトの構成、およびリモート サイトへのログインの各ワークフローを実行する必要があります。

ローカル サイトの構成

このワークフローでは、プラグインに Site Recovery Manager サイトを登録して、Site Recovery Manager および vCenter Server インベントリにアクセスできるようにします。

プラグインに Site Recovery Manager サイトをローカル サイトとして登録すると、そのサイトに対してワークフローが機能する方向が定義されます。たとえば、ローカル サイトにインベントリ マッピング ワークフローを実行すると、ローカル サイトのインベントリ オブジェクトがリモート サイトのインベントリ オブジェクトにマッピングされます。

単一の Orchestrator インスタンスに Site Recovery Manager の保護サイトとリカバリ サイトの両方をローカル サイトとして登録できます。これには、両方の vCenter Server インスタンスを Orchestrator クライアントに登録する必要があります。その後、単一の Orchestrator クライアントから両方のサイトに対して、選択した方向で実行できる残りのワークフローを実行できます。

前提条件

vCenter Server が Orchestrator クライアントに登録されていることを確認します。vCenter Server が Orchestrator に登録されていない場合、プラグインは Site Recovery Manager の URL を取得できないため、Site Recovery Manager 証明書をインポートできません。

注: vSphere 環境に対応するように Site Recovery Manager を構成する方法の詳細については、『VMware Realize Orchestrator のインストールと構成』ドキュメントの「vRealize Orchestrator の構成」セクションを参照してください。

手順

- 1 vRealize Orchestrator Client にシステム管理者としてログインします。
- 2 [ワークフロー] ビューをクリックします。
- 3 検索ボックスに「**Configure Local Sites**」と入力して、[Enter] を押します。
- 4 ワークフローをクリックし、[実行] をクリックします。
- 5 ワークフローで必要な入力パラメータを入力し、[実行] をクリックします。

表 4-6. 「ローカル サイトの構成」ワークフローの入力

入力	説明
Platform Services Controller	ローカル Platform Services Controller の IP アドレスまたはホスト名。
ポート	ローカル サイトのポート（デフォルト値は 443 に設定）。

入力	説明
パス	Lookup Service へのパス。
ユーザー名	ローカル サイトのユーザー名。
パスワード	ローカル サイトのパスワード。

リモート サイトの構成

リモート サイトの構成ワークフローでは、ペアリングされたリモートの Site Recovery Manager サイトを vRealize Orchestrator インスタンスに登録します。

保護サイトとリカバリ サイトの両方をローカル サイトとして登録している場合は、双方向でワークフローを実行するために、両方のサイトに対してワークフローを実行する必要があります。

ワークフローでは、リモート サイトにログインできるように、リモート vCenter Server または Platform Services Controller の証明書をインポートします。

前提条件

ワークフローの実行前に、ローカルおよびリモートの Site Recovery Manager サイトがペアリングされていることを確認します。

手順

- 1 vRealize Orchestrator Client にシステム管理者としてログインします。
- 2 [ワークフロー] ビューをクリックします。
- 3 検索ボックスに「**Configure Remote Site**」と入力して、[Enter] を押します。
- 4 ワークフローをクリックし、[実行] をクリックします。
- 5 ワークフローで必要な入力パラメータを入力し、[実行] をクリックします。

表 4-7. 「リモート サイトの構成」ワークフローの入力

入力	説明
ローカル サイト	ローカル Site Recovery Manager サイト。

リモート サイトへのログイン

他の Site Recovery Manager ワークフローを実行できるように、ワークフローでユーザーをリモート サイトにログインさせます。

vRealize Orchestrator クライアントの各セッションごとに、このワークフローを 1 回実行する必要があります。

Orchestrator は、ユーザーが Orchestrator クライアントからログアウトすると、リモートの Site Recovery Manager サイトからログアウトします。

リカバリ サイトおよび保護サイトをローカル サイトとして登録した場合、両方のサイトに対してワークフローを実行する必要があります。保護サイトおよびリカバリ サイトが拡張リンク モードで構成されている場合、「リモート サイトへのログイン」ワークフローを実行する必要はありません。

前提条件

Site Recovery Manager サイトの保護サイトとリカバリ サイトがペアリングされていることを確認します。

手順

- 1 vRealize Orchestrator Client にシステム管理者としてログインします。
- 2 [ワークフロー] ビューをクリックします。
- 3 検索ボックスに「**Login Remote Site**」と入力して、[Enter] を押します。
- 4 ワークフローをクリックし、[実行] をクリックします。
- 5 ワークフローで必要な入力パラメータを入力し、[実行] をクリックします。

表 4-8. 「リモート サイトへのログイン」 ワークフローの必須入力

入力	説明
ローカル サイト	ローカル Site Recovery Manager サイト。
ユーザー名	ローカル サイトのユーザー名。
パスワード	ローカル サイトのパスワード。

ローカル サイトの削除

このワークフローは、ローカル Site Recovery Manager サイトの登録を解除し、内部のプラグイン キャッシュを更新します。ローカル サイトを削除しても、マッピング、保護グループなど、以前に設定した構成は削除されません。

手順

- 1 vRealize Orchestrator Client にシステム管理者としてログインします。
- 2 [ワークフロー] ビューをクリックします。
- 3 検索ボックスに「**Remove Local Sites**」と入力して、[Enter] を押します。
- 4 ワークフローをクリックし、[実行] をクリックします。
- 5 ワークフローで必要な入力パラメータを入力し、[実行] をクリックします。

表 4-9. 「ローカル サイトの削除」 ワークフローの入力

入力	説明
ローカル Platform Services Controller	Site Recovery Manager サイトが追加されたローカル Platform Services Controller。

Site Recovery Manager プラグインでのインベントリ マッピング ワークフロー

インベントリ マッピングを使うと、Site Recovery Manager が保護サイトにある仮想マシンのリソースをリカバリ サイトのリソースにどのようにマッピングするか構成することができます。インベントリ マッピングは、リカバリ

サイトのインベントリにデフォルト オブジェクトを提供し、リカバリの実行時に、リカバリされる仮想マシンによって使用されます。

アレイベース レプリケーションおよび vSphere Replication については、保護グループを作成する前にサイト全体のインベントリ マッピングを構成する場合、デフォルトでは、すべての保護対象の仮想マシンに対してこれらのマッピングが使用されます。Site Recovery Manager は、保護グループの作成時に、アレイベース レプリケーション保護グループまたは vSphere Replication 保護グループ内のすべての仮想マシンにサイト全体のマッピングを適用します。サイト全体のインベントリ マッピングは、保護サイトおよびリカバリ サイトで対応する、以下のオブジェクト間に設定することができます。

- ネットワーク。テスト ネットワークを含む
- データセンターまたは仮想マシンのフォルダ
- リソース プール、スタンドアローン ホスト、vApp、クラスタ

注: リカバリ サイトのリソース プール、フォルダ、またはネットワークは、同じリモート データセンターに配置する必要があります。

フォルダ マッピングの追加

このワークフローでは、ローカル サイトのデータセンターまたは仮想マシンのフォルダからリモート サイトのデータセンターまたは仮想マシンのフォルダへのサイト全体のマッピングを追加します。

複数の親（データセンター）と子（仮想マシンのフォルダ）のオブジェクトを単一のオブジェクトにマッピングできます。単一のオブジェクトに指定できるマッピングは 1 つのみです。ワークフローは単一のオブジェクトに複数回実行でき、ワークフローの最新の実行によってサイト全体のマッピングが設定されます。データセンターを仮想マシンのフォルダにマッピングし、仮想マシンのフォルダをデータセンターにマッピングできます。

前提条件

Site Recovery Manager サイトがペアリングされていることを確認します。ペアリングが壊れた場合、すべての既存のマッピングが削除され、マッピングをさらに追加することはできません。

手順

- 1 vRealize Orchestrator Client にシステム管理者としてログインします。
- 2 [ワークフロー] ビューをクリックします。
- 3 検索ボックスに「**Add Folder Mapping**」と入力して、[Enter] を押します。
- 4 ワークフローをクリックし、[実行] をクリックします。

5 ワークフローで必要な入力パラメータを入力し、[実行] をクリックします。

表 4-10. 「フォルダ マッピングの追加」 ワークフローの入力

入力	説明
サイト	ローカル Site Recovery Manager サイト。
ローカル フォルダ	ローカルのデータセンターまたは仮想マシンのフォルダが対象。
リモート フォルダ	リモートのデータストアまたは仮想マシンのフォルダ。

ネットワーク マッピングの追加

このワークフローでは、ローカル サイトのネットワークからリモート サイトのネットワークへのサイト全体のマッピングを追加します。

前提条件

Site Recovery Manager サイトがペアリングされていることを確認します。ペアリングが壊れた場合、すべての既存のマッピングが削除され、マッピングをさらに追加することはできません。

手順

- 1 vRealize Orchestrator Client にシステム管理者としてログインします。
- 2 [ワークフロー] ビューをクリックします。
- 3 検索ボックスに「**Add Network Mapping**」と入力して、[Enter] を押します。
- 4 ワークフローをクリックし、[実行] をクリックします。
- 5 ワークフローで必要な入力パラメータを入力し、[実行] をクリックします。

表 4-11. 「ネットワーク マッピングの追加」 ワークフローの入力

入力	説明
サイト	ローカル Site Recovery Manager。
ローカル ネットワーク	リモート ネットワークにマッピングされるローカル ネットワーク。
リモート ネットワーク	リカバリする際に仮想マシンが接続するリモート ネットワーク。

リソース マッピングの追加

このワークフローは、プール、スタンドアローン ホスト、vApp、クラスタなどのコンピュータ リソースのサイト全体のマッピングを、ローカル サイトから、リモート サイトのプール、スタンドアローン ホスト、vApp、クラスタなどのコンピュータ リソースに追加します。

前提条件

Site Recovery Manager サイトがペアリングされていることを確認します。ペアリングが壊れた場合、すべての既存のマッピングが削除され、マッピングをさらに追加することはできません。

手順

- 1 vRealize Orchestrator Client にシステム管理者としてログインします。
- 2 [ワークフロー] ビューをクリックします。
- 3 検索ボックスに「**Add Resource Mapping**」と入力して、[Enter] を押します。
- 4 ワークフローをクリックし、[実行] をクリックします。
- 5 ワークフローで必要な入力パラメータを入力し、[実行] をクリックします。

表 4-12. 「リソース マッピングの追加」ワークフローの入力

入力	説明
サイト	ローカル Site Recovery Manager サイト。
ローカル リソース	ローカル リソース - リソース プール、スタンドアローン ホスト、vApp。
リモート リソース	リモート リソース - リソース プール、スタンドアローン ホスト、vApp、クラスタ。

テスト ネットワーク マッピングの追加

このワークフローは、リモート サイトのネットワークのサイト全体のマッピングをリモート サイトのテスト ネットワークに追加します。

前提条件

Site Recovery Manager サイトがペアリングされていることを確認します。ペアリングが壊れた場合、すべての既存のマッピングが削除され、マッピングをさらに追加することはできません。

手順

- 1 vRealize Orchestrator Client にシステム管理者としてログインします。
- 2 [ワークフロー] ビューをクリックします。
- 3 検索ボックスに「**Add Test Network Mapping**」と入力して、[Enter] を押します。
- 4 ワークフローで必要な入力パラメータを入力し、[実行] をクリックします。

表 4-13. 「テスト ネットワーク マッピングの追加」ワークフローの入力

入力	説明
サイト	ローカル Site Recovery Manager サイト。
リモート ネットワーク	リモート サイトのネットワーク。
テスト ネットワーク	リモート サイトのテスト ネットワーク。

フォルダ マッピングの取得

このワークフローは、既存のマッピングを持つローカル サイトのデータセンターまたは仮想マシン フォルダをリストします。

保護サイトとリカバリ サイトがローカル サイトとして登録されている場合、両方のサイトで既存のマッピングを持つすべてのデータセンターまたは仮想マシン フォルダを確認することができます。このワークフローでは、対応するオブジェクト間の正確なマッピングは表示されません。

手順

- 1 vRealize Orchestrator Client にシステム管理者としてログインします。
- 2 [ワークフロー] ビューをクリックします。
- 3 検索ボックスに「**Get Folder Mappings**」と入力して、[Enter] を押します。
- 4 ワークフローをクリックし、[実行] をクリックします。
- 5 ワークフローで必要な入力パラメータを入力し、[実行] をクリックします。

表 4-14. 「フォルダ マッピングの取得」 ワークフローの入力

入力	説明
サイト	ローカル Site Recovery Manager サイト。

ネットワーク マッピングの取得

このワークフローは、既存のマッピングのあるローカル サイトのネットワークをリストします。

保護サイトとリカバリ サイトがローカル サイトとして登録されている場合、両方のサイトで既存のマッピングを持つすべてのネットワークを確認することができます。このワークフローでは、対応するオブジェクト間の正確なマッピングは表示されません。

手順

- 1 vRealize Orchestrator Client にシステム管理者としてログインします。
- 2 [ワークフロー] ビューをクリックします。
- 3 検索ボックスに「**Get Network Mappings**」と入力して、[Enter] を押します。
- 4 ワークフローをクリックし、[実行] をクリックします。
- 5 ワークフローで必要な入力パラメータを入力し、[実行] をクリックします。

表 4-15. 「ネットワーク マッピングの取得」 ワークフローの入力

入力	説明
サイト	ローカル Site Recovery Manager サイト。

リソース マッピングの取得

このワークフローは、既存のマッピングのあるローカル サイトのリソースをリストします。

保護サイトとリカバリ サイトがローカル サイトとして登録されている場合、両方のサイトで既存のマッピングを持つすべてのリソースを確認することができます。このワークフローでは、対応するオブジェクト間の正確なマッピングは表示されません。

手順

- 1 vRealize Orchestrator Client にシステム管理者としてログインします。
- 2 [ワークフロー] ビューをクリックします。
- 3 検索ボックスに「**Get Resource Mappings**」と入力して、[Enter] を押します。
- 4 ワークフローをクリックし、[実行] をクリックします。
- 5 ワークフローで必要な入力パラメータを入力し、[実行] をクリックします。

表 4-16. 「リソース マッピングの取得」ワークフローの入力

入力	説明
サイト	ローカル Site Recovery Manager サイト。

テスト ネットワーク マッピングの取得

このワークフローは、リモート サイトのテスト ネットワークへの既存のマッピングを持つネットワークをリストします。

保護サイトとリカバリ サイトがローカル サイトとして登録されている場合、両方のサイトでリモートのテスト ネットワークへの既存のマッピングを持つすべてのリモート ネットワークを確認することができます。このワークフローでは、対応するオブジェクト間の正確なマッピングは表示されません。

手順

- 1 vRealize Orchestrator Client にシステム管理者としてログインします。
- 2 [ワークフロー] ビューをクリックします。
- 3 検索ボックスに「**Get Test Network Mappings**」と入力して、[Enter] を押します。
- 4 ワークフローをクリックし、[実行] をクリックします。
- 5 ワークフローで必要な入力パラメータを入力し、[実行] をクリックします。

表 4-17. 「テスト ネットワーク マッピングの取得」ワークフローの入力

入力	説明
サイト	ローカル Site Recovery Manager サイト。

フォルダ マッピングの削除

このワークフローは、ローカル フォルダまたはデータセンターとリモート フォルダまたはデータセンターの間の既存のサイト全体のマッピングを削除します。

手順

- 1 vRealize Orchestrator Client にシステム管理者としてログインします。
- 2 [ワークフロー] ビューをクリックします。

- 3 検索ボックスに「**Remove Folder Mapping**」と入力して、[Enter] を押します。
- 4 ワークフローをクリックし、[実行] をクリックします。
- 5 ワークフローで必要な入力パラメータを入力し、[実行] をクリックします。

表 4-18. 「フォルダ マッピングの削除」 ワークフローの入力

入力	説明
サイト	ローカル Site Recovery Manager サイト。
フォルダ マッピング	削除するフォルダ マッピング。

ネットワーク マッピングの削除

このワークフローは、ローカル サイトのネットワークとリモート サイトのネットワークの間の既存のサイト全体のマッピングを削除します。

手順

- 1 vRealize Orchestrator Client にシステム管理者としてログインします。
- 2 [ワークフロー] ビューをクリックします。
- 3 検索ボックスに「**Remove Network Mapping**」と入力して、[Enter] を押します。
- 4 ワークフローをクリックし、[実行] をクリックします。
- 5 ワークフローで必要な入力パラメータを入力し、[実行] をクリックします。

表 4-19. 「ネットワーク マッピングの削除」 ワークフローの入力

入力	説明
サイト	ローカル Site Recovery Manager サイト。
ネットワーク マッピング	削除するネットワーク マッピング。

リソース マッピングの削除

このワークフローは、ローカル サイトのリソースとリモート サイトのリソースの間の既存のサイト全体のマッピングを削除します。

手順

- 1 vRealize Orchestrator Client にシステム管理者としてログインします。
- 2 [ワークフロー] ビューをクリックします。
- 3 検索ボックスに「**Remove Resource Mapping**」と入力して、[Enter] を押します。
- 4 ワークフローをクリックし、[実行] をクリックします。

5 ワークフローで必要な入力パラメータを入力し、[実行] をクリックします。

表 4-20. 「リソース マッピングの削除」ワークフローの入力

入力	説明
サイト	ローカル Site Recovery Manager サイト。
リソース マッピング	削除するリソース マッピング。

テスト ネットワーク マッピングの削除

このワークフローは、リモート サイトのネットワークとリモート サイトのテスト ネットワークの間の既存のサイト全体のマッピングを削除します。

手順

- 1 vRealize Orchestrator Client にシステム管理者としてログインします。
- 2 [ワークフロー] ビューをクリックします。
- 3 検索ボックスに「**Remove Test Network Mapping**」と入力して、[Enter] を押します。
- 4 ワークフローをクリックし、[実行] をクリックします。
- 5 ワークフローで必要な入力パラメータを入力し、[実行] をクリックします。

表 4-21. 「テスト ネットワーク マッピングの削除」ワークフローの入力

入力	説明
サイト	ローカル Site Recovery Manager サイト。
テスト ネットワーク マッピング	削除するテスト ネットワーク マッピング。

Site Recovery Manager プラグインの保護グループ ワークフロー

保護グループとは、Site Recovery Manager がまとめて保護する仮想マシンまたは複製されたデータストアの集合です。Site Recovery Manager プラグインを使うと、アレイベース レプリケーションまたは vSphere Replication に基づいて、仮想マシンを保護グループに追加することができます。

複製された仮想マシンの vSphere Replication 保護グループへの追加

このワークフローは、vSphere Replication に対して構成された仮想マシンを vSphere Replication 保護グループに追加します。

手順

- 1 vRealize Orchestrator Client にシステム管理者としてログインします。
- 2 [ワークフロー] ビューをクリックします。

3 検索ボックスに

「**Add Replicated Virtual Machine to vSphere Replication Protection Group**」と入力して、[Enter] を押します。

4 ワークフローをクリックし、[実行] をクリックします。

5 ワークフローで必要な入力パラメータを入力し、[実行] をクリックします。

表 4-22. 「複製された仮想マシンの vSphere Replication 保護グループへの追加」ワークフローの入力

入力	説明
保護グループ	ローカルの vSphere Replication 保護グループ。
仮想マシン	vSphere Replication が有効になっている仮想マシン。

アレイベース レプリケーションの保護グループの作成

このワークフローでは、アレイベース レプリケーションの保護グループを作成します。

手順

1 vRealize Orchestrator Client にシステム管理者としてログインします。

2 [ワークフロー] ビューをクリックします。

3 検索ボックスに「**Create Protection Group for Array-Based Replication**」と入力して、[Enter] を押します。

4 ワークフローをクリックし、[実行] をクリックします。

5 ワークフローで必要な入力パラメータを入力し、[実行] をクリックします。

表 4-23. 「アレイベース レプリケーションの保護グループの作成」ワークフローの入力

入力	説明
保護フォルダ	保護グループを配置するローカル Site Recovery Manager サイトのフォルダ。
名前	保護グループ名。
説明	簡単な説明。
データストア	アレイベース レプリケーションを有効にするデータストア。

vSphere Replication 保護グループの作成

このワークフローでは、vSphere Replication 保護グループを作成します。

手順

1 vRealize Orchestrator Client にシステム管理者としてログインします。

2 [ワークフロー] ビューをクリックします。

- 3 検索ボックスに「**Create Protection Group for vSphere Replication**」と入力して、[Enter] をクリックします。
- 4 ワークフローをクリックし、[実行] をクリックします。
- 5 ワークフローで必要な入力パラメータを入力し、[実行] をクリックします。

表 4-24. 「vSphere Replication 保護グループの作成」ワークフローの入力

入力	説明
保護フォルダ	保護グループを配置するローカル Site Recovery Manager サイトのフォルダ。
名前	保護グループの名前。
説明	簡単な説明。
仮想マシン	保護グループに追加する仮想マシン。

データストアごとのアレイベース レプリケーション保護グループの検出

このワークフローは、ローカル データストアのアレイベース レプリケーション保護グループをリストします。

手順

- 1 vRealize Orchestrator Client にシステム管理者としてログインします。
- 2 [ワークフロー] ビューをクリックします。
- 3 検索ボックスに「**Find Array-Based Replication Protection Group by Datastore**」と入力して、[Enter] をクリックします。
- 4 ワークフローをクリックし、[実行] をクリックします。
- 5 ワークフローで必要な入力パラメータを入力し、[実行] をクリックします。

表 4-25. 「データストアごとのアレイベース レプリケーション保護グループの検出」ワークフローの入力

入力	説明
サイト	ローカル Site Recovery Manager サイト。
データストア	ローカル vCenter Server に接続されるデータストア。

未割り当ての複製されたデータストアの取得

このワークフローは、アレイベース レプリケーション保護グループに関連付けされていないローカル サイトのすべての複製されたデータストアをリストします。

手順

- 1 vRealize Orchestrator Client にシステム管理者としてログインします。
- 2 [ワークフロー] ビューをクリックします。
- 3 検索ボックスに「**Get Unassigned Replicated Datastores**」と入力して、[Enter] をクリックします。

- 4 ワークフローをクリックし、[実行] をクリックします。
- 5 ワークフローで必要な入力パラメータを入力し、[実行] をクリックします。

表 4-26. 「未割り当ての複製されたデータストアの取得」ワークフローの入力

入力	説明
サイト	ローカル Site Recovery Manager サイト。

保護されたデータストアのリスト

このワークフローは、アレイベース レプリケーション保護グループに関連付けされた、すべての複製されたデータストアをリストします。

このワークフローで許可されている入力はアレイベース レプリケーション保護グループのみです。入力に対し、アレイベース レプリケーションが有効にされていて、選択した保護グループと関連付けされているデータストアのリストを返します。

手順

- 1 vRealize Orchestrator Client にシステム管理者としてログインします。
- 2 [ワークフロー] ビューをクリックします。
- 3 検索ボックスに「**List Protected Datastores**」と入力して、[Enter] をクリックします。
- 4 ワークフローをクリックし、[実行] をクリックします。
- 5 ワークフローで必要な入力パラメータを入力し、[実行] をクリックします。

表 4-27. 「保護されたデータストアのリスト」ワークフローの入力

入力	説明
保護グループ	アレイベース レプリケーション保護グループのみ。

保護グループのリスト

このワークフローは、既存のアレイベース レプリケーションおよび vSphere Replication 保護グループをリストします。

手順

- 1 vRealize Orchestrator Client にシステム管理者としてログインします。
- 2 [ワークフロー] ビューをクリックします。
- 3 [ライブラリ] - [SRM] - [保護グループ] の順に選択します。
- 4 [保護グループのリスト] ワークフロー要素を右クリックして、[ワークフローの開始] を選択します。

5 ウィザードのプロンプトの手順を実行してください。

表 4-28. 「保護グループのリスト」ワークフローの入力

入力	説明
サイト	ローカル Site Recovery Manager サイト。

保護グループに関連付けられた保護されていないすべての仮想マシンの保護

このワークフローは、保護グループのメンバーである保護されていないすべての仮想マシンに対して保護を有効にし、リカバリ サイトにプレースホルダ仮想マシンを作成します。

手順

- 1 vRealize Orchestrator Client にシステム管理者としてログインします。
- 2 [ワークフロー] ビューをクリックします。
- 3 検索ボックスに
「**Protect All Unprotected Virtual Machines Associated with Protection Group**」と入力して、[Enter] をクリックします。
- 4 ワークフローをクリックし、[実行] をクリックします。
- 5 ワークフローで必要な入力パラメータを入力し、[実行] をクリックします。

表 4-29. 「保護グループに関連した保護されていないすべての仮想マシンの保護」ワークフローの入力

入力	説明
保護グループ	ローカル Site Recovery Manager サイトの保護グループ。

仮想マシンの保護

このワークフローは、仮想マシンの保護を有効にして、リカバリ サイトにプレースホルダ仮想マシンを作成します。

手順

- 1 vRealize Orchestrator Client にシステム管理者としてログインします。
- 2 [ワークフロー] ビューをクリックします。
- 3 検索ボックスに「**Protect Virtual Machine**」と入力して、[Enter] をクリックします。
- 4 ワークフローをクリックし、[実行] をクリックします。
- 5 ワークフローで必要な入力パラメータを入力し、[実行] をクリックします。

表 4-30. 「仮想マシンの保護」ワークフローの入力

入力	説明
保護グループ	ローカル Site Recovery Manager サイトの保護グループ。
仮想マシン	レプリケーションが有効な仮想マシン。

保護グループの削除

このワークフローは保護グループを削除します。

保護グループを削除すると、Site Recovery Manager は、そのグループからすべての仮想マシンを削除して保護を停止し、リカバリ サイトのすべてのプレースホルダ仮想マシンを削除します。

手順

- 1 vRealize Orchestrator Client にシステム管理者としてログインします。
- 2 [ワークフロー] ビューをクリックします。
- 3 検索ボックスに「**Remove Protection Group**」と入力して、[Enter] をクリックします。
- 4 ワークフローをクリックし、[実行] をクリックします。
- 5 ワークフローで必要な入力パラメータを入力し、[実行] をクリックします。

表 4-31. 「保護グループの削除」ワークフローの入力

入力	説明
保護グループ	削除するローカル保護グループ。

複製された仮想マシンの vSphere Replication 保護グループからの削除

このワークフローは、仮想マシンを vSphere Replication 保護グループから削除します。

このワークフローを実行する時は、保護グループのメンバーである vCenter Server インベントリから仮想マシンを選択する必要があります。

手順

- 1 vRealize Orchestrator Client にシステム管理者としてログインします。
- 2 [ワークフロー] ビューをクリックします。
- 3 検索ボックスに「**Remove Replicated VM from vSphere Replication Protection Group**」と入力して、[Enter] をクリックします。
- 4 ワークフローをクリックし、[実行] をクリックします。
- 5 ワークフローで必要な入力パラメータを入力し、[実行] をクリックします。

表 4-32. 「複製された仮想マシンの vSphere Replication 保護グループからの削除」ワークフローの入力

入力	説明
保護グループ	ローカル Site Recovery Manager サイトの保護グループ。
仮想マシン	選択した vSphere Replication 保護グループの仮想マシン メンバー。

仮想マシンの保護解除

このワークフローは、選択した保護グループから仮想マシンの保護を解除し、ブレースホルダ仮想マシンをリカバリサイトから削除します。

手順

- 1 vRealize Orchestrator Client にシステム管理者としてログインします。
- 2 [ワークフロー] ビューをクリックします。
- 3 検索ボックスに「**Unprotect Virtual Machines**」と入力して、[Enter] を押します。
- 4 ワークフローをクリックし、[実行] をクリックします。
- 5 ワークフローで必要な入力パラメータを入力し、[実行] をクリックします。

表 4-33. 「仮想マシンの保護解除」 ワークフローの入力

入力	説明
保護グループ	ローカル Site Recovery Manager サイトの保護グループ。
保護される仮想マシン	選択した保護グループの保護される仮想マシン メンバー。

グループ データストアの更新

このワークフローは、アレイベース レプリケーション保護グループでデータストアを追加および削除します。

手順

- 1 vRealize Orchestrator Client にシステム管理者としてログインします。
- 2 [ワークフロー] ビューをクリックします。
- 3 検索ボックスに「**Update Group Datastore**」と入力して、[Enter] を押します。
- 4 ワークフローをクリックし、[実行] をクリックします。
- 5 ワークフローで必要な入力パラメータを入力し、[実行] をクリックします。

表 4-34. 「グループ データストアの更新」 ワークフローの入力

入力	説明
保護グループ	変更するアレイベース レプリケーション保護グループ。
追加するデータストア	保護グループに追加するデータストア。
削除するデータストア	保護グループから削除するデータストア。

Site Recovery Manager プラグインのリカバリ プラン ワークフロー

リカバリ プランには、Site Recovery Manager が仮想マシンを保護サイトからリカバリ サイトにリカバリする際の手順が含まれています。

リカバリ プランには 1 つ以上の保護グループを含めることができます。[保護グループのリカバリ プランへの追加] および [保護グループのリカバリ プランからの削除] ワークフローを使うと、保護グループをリカバリ プランに追加したり、削除したりできます。リカバリ プランは、アレイベース レプリケーション保護グループおよび vSphere Replication 保護グループの両方を含むことができます。

リカバリ プランへの保護グループの追加

このワークフローでは、選択した Site Recovery Manager サイトに保護グループを追加します。

リカバリ プランに追加する保護グループは、選択した Site Recovery Manager サイトに対してローカルになっている必要があります。

手順

- 1 vRealize Orchestrator Client にシステム管理者としてログインします。
- 2 [ワークフロー] ビューをクリックします。
- 3 検索ボックスに「**Add Protection Group to Recovery Plan**」と入力して、[Enter] を押します。
- 4 ワークフローをクリックし、[実行] をクリックします。
- 5 ワークフローで必要な入力パラメータを入力し、[実行] をクリックします。

表 4-35. 「リカバリ プランへの保護グループの追加」 ワークフローの入力

入力	説明
サイト	ローカル Site Recovery Manager サイト。
保護グループ	ローカル Site Recovery Manager サイトで作成された保護グループ。

テスト ネットワーク マッピングのリカバリ プランへの追加

このワークフローは、選択したリカバリ プランにリモート サイトの既存のネットワークと既存のテスト ネットワーク間のマッピングを追加します。

テスト ネットワークは、[リカバリ プランの作成] ワークフローを使用して手動で作成する必要があります。リカバリ プランでリカバリ中に使用するネットワークごとにテスト ネットワークを構成する必要があります。

手順

- 1 vRealize Orchestrator Client にシステム管理者としてログインします。
- 2 [ワークフロー] ビューをクリックします。
- 3 検索ボックスに「**Add Test Network Mapping to Recovery Plan**」と入力して、[Enter] を押します。
- 4 ワークフローをクリックし、[実行] をクリックします。

5 ワークフローで必要な入力パラメータを入力し、[実行] をクリックします。

表 4-36. 「テスト ネットワーク マッピングのリカバリ プランへの追加」ワークフローの入力

入力	説明
リカバリ プラン	ローカルの Site Recovery Manager サイトにあるリカバリ プラン。
リモート ネットワーク	テスト ネットワークにマッピングされるリモート ネットワーク。
テスト ネットワーク	テスト ネットワークとして機能するリモート ネットワーク。

リカバリ プランの作成

このワークフローでは、リカバリ プランを作成し、既存の保護グループを追加します。

手順

- 1 vRealize Orchestrator Client にシステム管理者としてログインします。
- 2 [ワークフロー] ビューをクリックします。
- 3 検索ボックスに「**Create Recovery Plan**」と入力して、[Enter] を押します。
- 4 ワークフローをクリックし、[実行] をクリックします。
- 5 ワークフローで必要な入力パラメータを入力し、[実行] をクリックします。

表 4-37. 「リカバリ プランの作成」ワークフローの入力

入力	説明
リカバリ フォルダ	リカバリ プランを配置するローカル Site Recovery Manager サイトのフォルダ。
名前	リカバリ プランの名前。
説明	簡単な説明。
保護グループ	リカバリ プランに追加する既存のアレイベースの保護グループまたは vSphere Replication 保護グループ。

リカバリ プランの削除

このワークフローはリカバリ プランを削除します。

このワークフローは、実行時のリカバリ プランの状態のチェックを実行します。リカバリ プランの状態が適切でない場合、ワークフローは次のエラーメッセージと共に失敗します：この操作は、現在の状態では実行できません。

手順

- 1 vRealize Orchestrator Client にシステム管理者としてログインします。
- 2 [ワークフロー] ビューをクリックします。
- 3 検索ボックスに「**Delete Recovery Plan**」と入力して、[Enter] を押します。
- 4 ワークフローをクリックし、[実行] をクリックします。

5 ワークフローで必要な入力パラメータを入力し、[実行] をクリックします。

表 4-38. 「リカバリ プランの削除」ワークフローの入力

入力	説明
リカバリ プラン	ローカルの Site Recovery Manager サイトにあるリカバリ プラン。

リカバリ プランのキャンセルの開始

このワークフローは、リカバリ プランのフェイルオーバーまたはテストのキャンセルを開始します。

テストまたはリカバリをキャンセルすると、Site Recovery Manager はプロセスを開始することなく、特定のルールを使用して処理中のプロセスを停止します。フェイルオーバーをキャンセルした場合は、再実行する必要があります。テストをキャンセルした場合はクリーンアップする必要があります。

- パワーオン、ハートビートの待機などの停止できないプロセスは、完了するまで実行してからキャンセルを完了します。
- キャンセルした場合、ストレージ デバイスを追加または削除するプロセスはクリーンアップ操作によって取り消されます。

このワークフローは、実行時のリカバリ プランの状態のチェックを実行します。リカバリ プランの状態が [running] の場合、リカバリまたはテストはキャンセルできます。

リカバリ プランは、ペアのサイトの間での保護の方向を指定して作成されます。[リカバリ プランのキャンセルの開始] ワークフローを実行すると、リカバリ（受信）サイトでリカバリまたはテストをキャンセルすることができます。

手順

- 1 vRealize Orchestrator Client にシステム管理者としてログインします。
- 2 [ワークフロー] ビューをクリックします。
- 3 検索ボックスに「**Initiate Cancel Recovery Plan**」と入力して、[Enter] を押します。
- 4 ワークフローをクリックし、[実行] をクリックします。
- 5 ワークフローで必要な入力パラメータを入力し、[実行] をクリックします。

表 4-39. 「リカバリ プランのキャンセルの開始」ワークフローの入力

入力	説明
リカバリ プラン	リモートの Site Recovery Manager サイトで状態が [running] のリカバリ プラン。

リカバリ プランの状態の取得

このワークフローは、選択されたリカバリ プランの状態をリストします。

手順

- 1 vRealize Orchestrator Client にシステム管理者としてログインします。

- 2 [ワークフロー] ビューをクリックします。
- 3 検索ボックスに「**Get Recovery Plan State**」と入力して、[Enter] を押します。
- 4 ワークフローをクリックし、[実行] をクリックします。
- 5 ワークフローで必要な入力パラメータを入力し、[実行] をクリックします。

表 4-40. 「リカバリ プランの状態の取得」ワークフローの入力

入力	説明
サイト	ローカル Site Recovery Manager サイト。

Site Recovery Manager の外部 API は、デフォルトの内部の状態と比較して、さまざまなリカバリ プランの状態を割り当てます。下表に、外部 API のリカバリ プランの状態と内部 Site Recovery Manager のリカバリ プランの状態のマッピングを示します。

表 4-41. 外部リカバリ プランの状態のマッピング

状態	ローカルの状態	ピアの状態
running	testInitiated	testInitiated
	testInProgress	testInProgress
	cleanupInProgress	cleanupInProgress
	failoverInitiated	failoverInitiated
	failoverInProgress	failoverInProgress
	reprotectInitiated	reprotectInitiated
	reprotectInProgress	reprotectInProgress
	rollbackInitiated	rollbackInitiated
	rollbackInProgress	rollbackInProgress
failedOver	failedOver	failedOver
	partialRollback	partialRollback
needsReprotect	partialReprotect	partialReprotect
	reprotectIncomplete	reprotectIncomplete
	reprotectInterrupted	reprotectInterrupted
needsCleanup	testComplete	testComplete
	cleanupIncomplete	cleanupIncomplete
	cleanupInterrupted	cleanupInterrupted
needsFailover	partialFailover	failedOverSplit
	failedOverSplit	failoverIncomplete
	failoverIncomplete	failoverInterrupted
	failoverInterrupted	
needsRollback	rollbackIncomplete	rollbackIncomplete
	rollbackInterrupted	rollbackInterrupted

状態	ローカルの状態	ピアの状態
error	readyMixed	readyMixed
	noProtectionGroups	noProtectionGroups
	deleting	deleting
	groupsInUse	groupsInUse
	unknownState	unknownState
	syncConflict	syncConflict
ready	readyReceiving	
	testInterrupted	

リカバリ プランのクリーンアップの開始

このワークフローはリカバリ プランのクリーンアップを開始します。

このワークフローは、実行時のリカバリ プランの状態のチェックを実行します。リカバリ プランの状態が [needsCleanup] の場合、テストをクリーンアップできます。

リカバリ プランは、ペアのサイトの間での保護の方向を指定して作成されます。[リカバリ プランのクリーンアップの開始] ワークフローを実行すると、リカバリ サイトのリカバリ プランのテストをクリーンアップすることができます。

手順

- 1 vRealize Orchestrator Client にシステム管理者としてログインします。
- 2 [ワークフロー] ビューをクリックします。
- 3 検索ボックスに「**Initiate Cleanup Recovery Plan**」と入力して、[Enter] を押します。
- 4 ワークフローをクリックし、[実行] をクリックします。
- 5 ワークフローで必要な入力パラメータを入力し、[実行] をクリックします。

表 4-42. 「リカバリ プランのクリーンアップの開始」ワークフローの入力

入力	説明
リカバリ プラン	リカバリ Site Recovery Manager サイトのリカバリ プラン。

リカバリ プランのフェイルオーバーの開始

このワークフローは、選択したリカバリ プランを使用して、保護サイトからリカバリ サイトへのディザスタ リカバリのフェイルオーバーを開始します。

ディザスタ リカバリのフェイルオーバーが完了すると、Site Recovery Manager は、仮想マシンをリカバリ サイトにリカバリします。操作中に保護サイトでエラーが発生しても、ディザスタ リカバリのフェイルオーバーは続行し、失敗しません。

[リカバリ プランのフェイルオーバーの開始] ワークフローはリカバリ サイトで実行することができます。

このワークフローは、実行時のリカバリ プランの状態のチェックを実行します。リカバリ プランの状態が [ready] の場合、フェイルオーバーを実行できます。

手順

- 1 vRealize Orchestrator Client にシステム管理者としてログインします。
- 2 [ワークフロー] ビューをクリックします。
- 3 検索ボックスに「[Initiate Failover Recovery Plan]」と入力して、[Enter] を押します。
- 4 ワークフローをクリックし、[実行] をクリックします。
- 5 ワークフローで必要な入力パラメータを入力し、[実行] をクリックします。

表 4-43. 「リカバリ プランのフェイルオーバーの開始」 ワークフローの入力

入力	説明
リカバリ プラン	保護サイトからリカバリ サイトへフェイルオーバーするリカバリ プラン。

計画移行リカバリ プランの開始

このワークフローは、選択したリカバリ プランを使用して、保護サイトからリカバリ サイトへの計画移行のフェイルオーバーを開始します。

計画移行のフェイルオーバーが完了すると、Site Recovery Manager は、仮想マシンをリカバリ サイトに移行し、保護サイトの対応する仮想マシンをシャットダウンしようとします。

保護サイトでエラーが発生した場合、エラーを解決してプランを再実行できるように、計画移行操作は停止します。

手順

- 1 vRealize Orchestrator Client にシステム管理者としてログインします。
- 2 [ワークフロー] ビューをクリックします。
- 3 検索ボックスに「**Initiate Planned Migration Recovery Plan**」と入力して、[Enter] を押します。
- 4 ワークフローをクリックし、[実行] をクリックします。
- 5 ワークフローで必要な入力パラメータを入力し、[実行] をクリックします。

表 4-44. 「計画移行リカバリ プランの開始」 ワークフローの入力

入力	説明
リカバリ プラン	リカバリ Site Recovery Manager サイトのリカバリ プラン。

リカバリ プランの再保護の開始

このワークフローは、フェイルオーバーが完了した後、リカバリ サイトで仮想マシンを保護する再保護プロセスを開始します。

再保護プロセスは、リカバリがエラーなく完了し、元の保護サイトが運用可能である場合のみ開始できます。フォルダ、ネットワーク、リソースの反転マッピングは、元のリカバリ サイトから元の保護サイトに実行される必要があります。再保護プロセスでは、Site Recovery Manager は、保護の方向を反転させ、新しい保護サイトから新しいリカバリ サイトへのストレージの同期を強制的に実行します。

[リカバリ プランの再保護の開始] ワークフローは、リカバリ サイトで実行することができます。

このワークフローは、実行時のリカバリ プランの状態のチェックを実行します。リカバリ プランの状態が [failedOver] の場合、再保護のワークフローを実行できます。

手順

- 1 vRealize Orchestrator Client にシステム管理者としてログインします。
- 2 [ワークフロー] ビューをクリックします。
- 3 検索ボックスに「**Initiate Reprotect Recovery Plan**」と入力して、[Enter] を押します。
- 4 ワークフローをクリックし、[実行] をクリックします。
- 5 ワークフローで必要な入力パラメータを入力し、[実行] をクリックします。

表 4-45. 「リカバリ プランの再保護の開始」ワークフローの入力

入力	説明
リカバリ プラン	保護サイトからリカバリ サイトへフェイルオーバーされるリカバリ プラン。

リカバリ プランのテストの開始

このワークフローは、選択したリカバリ プランのテストを開始します。

このワークフローは、実行時のリカバリ プランの状態のチェックを実行します。リカバリ プランの状態が [ready] の場合、テストを実行できます。

リカバリ プランは、ペアのサイトの間での保護の方向を指定して作成されます。[リカバリ プランのテストの開始] ワークフローはリカバリ サイトで実行することができます。リカバリ プランのテスト後、リカバリ プランを元の状態に戻すには、クリーンアップを実行する必要があります。

手順

- 1 vRealize Orchestrator Client にシステム管理者としてログインします。
- 2 [ワークフロー] ビューをクリックします。
- 3 検索ボックスに「**Initiate Test Recovery Plan**」と入力して、[Enter] を押します。
- 4 ワークフローをクリックし、[実行] をクリックします。
- 5 ワークフローで必要な入力パラメータを入力し、[実行] をクリックします。

表 4-46. 「リカバリ プランのテストの開始」ワークフローの入力

入力	説明
リカバリ プラン	リカバリ サイトでテストを実行するリカバリ プラン。

リカバリ プランのリスト

このワークフローは、すべてのアレイベース レプリケーションおよび vSphere Replication リカバリ プランをリストします。

手順

- 1 vRealize Orchestrator Client にシステム管理者としてログインします。
- 2 [ワークフロー] ビューをクリックします。
- 3 検索ボックスに「**List Recovery Plans**」と入力して、[Enter] を押します。
- 4 ワークフローをクリックし、[実行] をクリックします。
- 5 ワークフローで必要な入力パラメータを入力し、[実行] をクリックします。

表 4-47. 「リカバリ プランのリスト」 ワークフローの入力

入力	説明
サイト	ローカル Site Recovery Manager サイト。

保護グループのリカバリ プランからの削除

このワークフローは、保護グループをリカバリ プランから削除します。

このワークフローは、実行時のリカバリ プランの状態のチェックを実行します。リカバリ プランの状態が [ready] の場合、保護グループを削除できます。

手順

- 1 vRealize Orchestrator Client にシステム管理者としてログインします。
- 2 [ワークフロー] ビューをクリックします。
- 3 検索ボックスに「**Remove Protection Group from Recovery Plan**」と入力して、[Enter] を押します。
- 4 ワークフローをクリックし、[実行] をクリックします。
- 5 ワークフローで必要な入力パラメータを入力し、[実行] をクリックします。

表 4-48. 「保護グループのリカバリ プランからの削除」 ワークフローの入力

入力	説明
リカバリ プラン	ローカル Site Recovery Manager サイトのリカバリ プラン。
保護グループ	選択したリカバリ プランの保護グループ メンバー。

テスト ネットワーク マッピングのリカバリ プランからの削除

このワークフローは、テスト ネットワーク マッピングをリカバリ プランから削除します。

このワークフローは、実行時のリカバリ プランの状態のチェックを実行します。リカバリ プランの状態が [ready] の場合、保護グループを削除できます。

手順

- 1 vRealize Orchestrator Client にシステム管理者としてログインします。
- 2 [ワークフロー] ビューをクリックします。
- 3 検索ボックスに「**Remove Test Network Mapping from Recovery Plan**」と入力して、[Enter] を押します。
- 4 ワークフローをクリックし、[実行] をクリックします。
- 5 ワークフローで必要な入力パラメータを入力し、[実行] をクリックします。

表 4-49. 「テスト ネットワーク マッピングのリカバリ プランからの削除」ワークフローの入力

入力	説明
リカバリ プラン	ローカル Site Recovery Manager サイトのリカバリ プラン。
テスト ネットワーク	リモート テスト ネットワーク。

IP アドレスの設定

このワークフローでは、仮想マシンの IP アドレス設定を個別にカスタマイズします。これは単独では実行できない、ネストされたワークフローです。IP アドレス設定ワークフローは、仮想マシンのリカバリ設定ワークフローの一部としてのみ呼び出されます。

仮想マシンごとの IP アドレス設定のカスタマイズを自動化する方法については、[仮想マシン リカバリ設定の指定](#)を参照してください。

仮想マシン リカバリ設定の指定

仮想マシンをリカバリする時は、Site Recovery Manager は事前に定義された手順を特定の順序で実行します。

「仮想マシン リカバリ設定の指定」ワークフローを使用すると、仮想マシンのリカバリ方法の設定とカスタマイズができます。このワークフローの [コマンド] または [プロンプト] 入力を使用すると、手順をカスタマイズして追加することができます。

また、仮想マシンの IP アドレス設定を個別にカスタマイズすることもできます。仮想マシンの IP プロパティのカスタマイズは、リカバリした仮想マシンがリカバリ サイトで起動するとき、既定の IP アドレス設定をオーバーライドします。

手順

- 1 vRealize Orchestrator Client にシステム管理者としてログインします。
- 2 [ワークフロー] ビューをクリックします。
- 3 検索ボックスに「**Set Virtual Machine Recovery Settings**」と入力して、[Enter] を押します。
- 4 ワークフローをクリックし、[実行] をクリックします。

5 ワークフローで必要な入力パラメータを入力し、[実行] をクリックします。

表 4-50. 「仮想マシン リカバリ設定の指定」ワークフローの入力

入力			説明
リカバリ プラン			ローカル サイトのリカバリ プラン。
仮想マシン			設定対象の仮想マシン。
仮想マシンの最終電源状態			仮想マシンがリカバリされる際の、パワーオン、サスペンド、またはパワーオフなどの電源状態。
仮想マシン リカバリの優先グループ			仮想マシンのシャットダウンおよびパワーオンの順序を、最も高い優先度を 1、最も低い優先度を 5 として指定します。
パワーオン前後の手順	コマンド	コマンド名	コマンド名を指定します。
		コマンド テキスト	実行するコマンドまたはスクリプトを指定します。
		コマンド タイムアウト	実行後のタイムアウトを設定します。
	プロンプト	プロンプト名	プロンプト名を指定します。
		プロンプト テキスト	ユーザーにタスク実行を確認し、ユーザーが認証する必要がある情報を提供します。
IP アドレス カスタマイズ モード	自動	詳細なリカバリ設定 <code>recovery.useIpMapperAutomatically</code> を使用して、Site Recovery Manager で IP アドレスのカスタマイズを制御できるようにします。この値が True に設定され、事前に IP アドレス マッピング ルールを定義している場合、Site Recovery Manager はそのルールをリカバリ中に適用します。値が False に設定された場合は、IP アドレスのマッピング ルールがある場合でも、Site Recovery Manager はそのルールをリカバリ中の仮想マシンには適用しません。	
		該当する場合、IP アドレスのカスタマイズ ルールを使用する	
		IP アドレスのカスタマイズは行わない	
		手動の IP アドレス カスタマイズ	

呼び出しの削除

このワークフローでは、以前に指定したコマンドやプロンプトで、リカバリ中に仮想マシン レベルで実行されるコマンドやプロンプトなど、パワーオン前の手順とパワーオン後の手順を削除できます。

仮想マシンをリカバリする時は、Site Recovery Manager は事前に定義された手順を特定の順序で実行します。呼び出しの削除ワークフローを使用すると、仮想マシンに指定したパワーオン前後の手順を削除することができます。

手順

- 1 vRealize Orchestrator Client にシステム管理者としてログインします。
- 2 [ワークフロー] ビューをクリックします。

- 3 検索ボックスに「**Delete Callouts**」と入力し、[Enter] を押します。
- 4 ワークフローをクリックし、[実行] をクリックします。
- 5 ワークフローで必要な入力パラメータを入力し、[実行] をクリックします。

表 4-51. 「呼び出しの削除」ワークフローの入力

入力		説明
リカバリ プラン		ローカル Site Recovery Manager サイトのリカバリ プラン。
仮想マシン		設定対象の仮想マシン。
パワーオン前後の手順	コマンド	コマンド名。
	プロンプト	プロンプト名。

Site Recovery Manager プラグインのストレージ ワークフロー

複製されたデバイスの検出

このワークフローは、有効になっているすべてのアレイ ペアで、複製されたデバイスの検出操作を開始します。

手順

- 1 vRealize Orchestrator Client にシステム管理者としてログインします。
- 2 [ワークフロー] ビューをクリックします。
- 3 検索ボックスに「**Discover Replicated Devices**」と入力して、[Enter] を押します。
- 4 ワークフローをクリックし、[実行] をクリックします。
- 5 ワークフローで必要な入力パラメータを入力し、[実行] をクリックします。

表 4-52. 「複製されたデバイスの検出」ワークフローの入力

入力	説明
サイト	ローカル Site Recovery Manager サイト。